

「全鍍連」 2020年7月号 いきいき地域

東北・北海道表面処理工業組合 岡崎 淳一（ジャスト(株) 代表取締役社長）

「山形の由来」



私が大学生の時ですが北海道に住んでおり、友人に山形って何で山形なの？と言われて、気になって調べたお話です。山形県は、もともと「出羽」の国と称されておりましたが、なぜ山形になったのかということです。山形になったのは明治4年に成立されましたが、出羽から山形とは、あまりにもかけ離れた単語に不思議な思いを馳せておりました。図書館で文献を見たところ「山の方（山のある方角）」ということで、山方となり形は当て字だと記されておりました。また違う文献には、「山の彼方（四方が山に囲まれており、県をまたぐのに峠を越えなければならない為）」と記されている物もございました。しかしながら、意外と単純でこんなものかと思っていた時から10年後くらいに、スピリチュアルな友人が、なぜ山形になったかわかるという質問をしてきて、調べた内容を答えたが、友人の教えはゾクゾクする回答でした。山形県は全国有数の山岳信仰が盛んな土地で、山脈に囲まれている県境と県の中心部に位置する出羽三山という山形を象徴する山がそびえ立っております。出羽三山「羽黒山・月山・湯殿山」と三つの山が並んでおり、古くから親しまれてきております。それぞれの山には神が宿り、羽黒山神社、月山神社、湯殿山神社と多くの方が参拝に訪れます。その中でも湯殿山は一番スピリチュアルな山で、読んで字のごとく「お湯の神」を宿る山であります。山形県は、35市町村すべてに温泉があり湯の神が宿るのもわかるなと思っておりましたが、そんなことではなく、湯殿山に登れば全国各地から崇拝に来たことがわかるものがまつられており身の毛もよだつのですが、古くから陰陽師や霊媒師の方が自分の身に宿した霊をお湯をもってして洗い流す場所であるということだそうです。その流れた霊は、山形県全土を縦断している最上川に流れ、日本海へ放流されるということです。このことから、「山」は出羽三山を表します。そして「形」は、左側の部首が鳥居を表し、右側は最上川を表しているということだそうです。あまりにも合致している話に寒気を覚えたことを思い出します。しかしながら、文献があるわけでもないので何とも言えませんが、意識して生活していると少しそれっぽいこともございます。通常の家は仏教だと思いますが、出羽三山を有するエリアは庄内地域というエリアになっており、県の中心から北部を表します。そのエリアには神教が多いとされていることから、出羽三山を古くから信仰されていることが読み解けます。いずれに致しましても、山形は山に囲まれた盆地でありますし、夏は暑くて冬は寒いということに変わりはありませんし、出羽三山、最上川も山形県を代表する観光スポットです。このコロナの影響が終息したあかつきには、工場視察のついででも構いませんし、家族旅行等でぜひご来県していただけますことを心から歓迎を申し上げます。コロナの終息と皆様方のご健康をご祈念申し上げます。